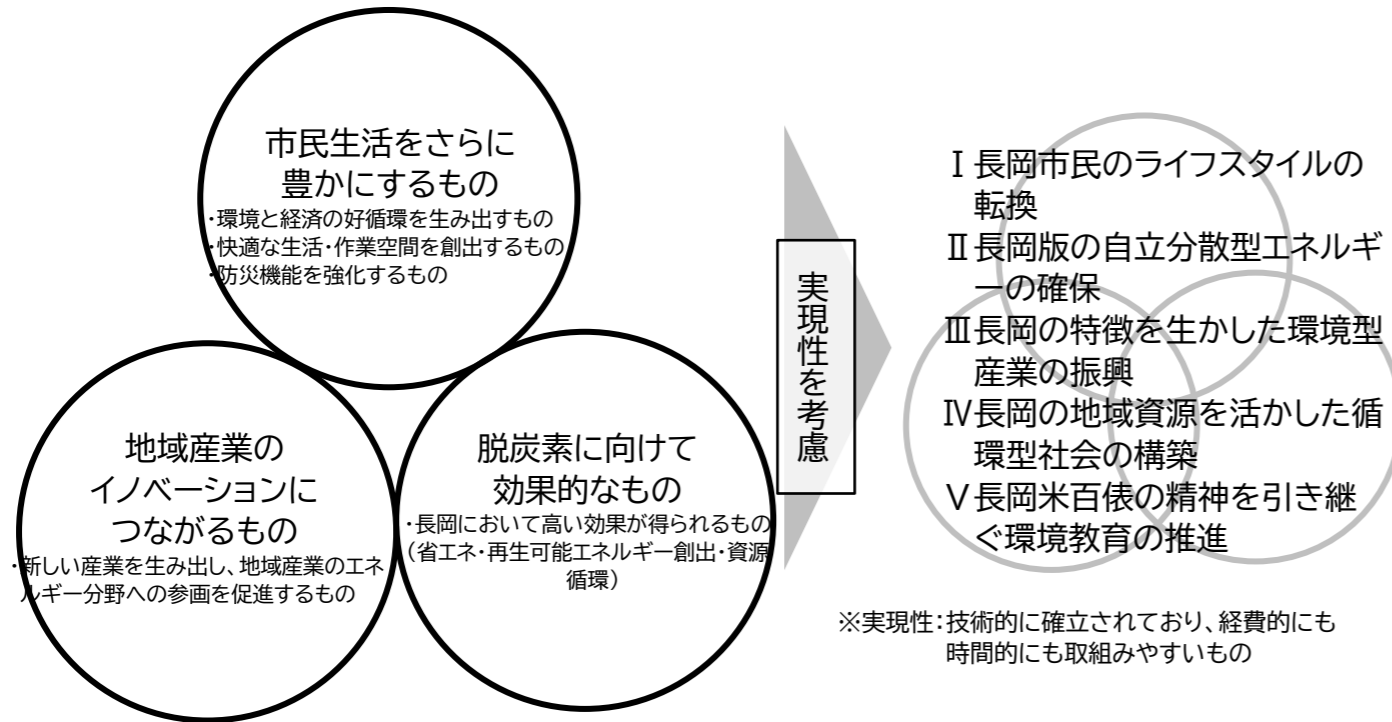


分野別プロジェクトの取組に向けた基本的な考え方（案）



I 長岡市民のライフスタイルの転換

食の地産地消、食品ロスの削減、公共交通の利用、プラスチックの再利用、カーボンオフセットなど、市民一人一人が出来るところから行動を選択できるよう環境啓発を行い、幅広いプロジェクトで環境配慮型のライフスタイルを促進する。

また、住宅・建築物そのものの脱炭素化が重要。このため、高性能省エネ機器への買い替え、再エネ電気への切り替え、高気密・高断熱化・躯体性能の向上などによるZEH、ZEBの拡大、住宅への太陽光発電設備の普及に取り組む。

II 長岡版の自立分散型エネルギーシステムの構築

2050年の脱炭素社会の実現には、リードタイムの短い太陽光発電が重要。まずは、市の庁舎など公共建築物の率先実行、地域共生型の太陽光発電の促進(PPA(第三者所有モデル))など、住宅などにおける自家消費型太陽光発電を促進する。また、地域単位の脱炭素を進めるため、再エネ、省エネ、ZEH、ZEB、EV車など新たな経済成長や防災機能の強化と結びつける施策に取り組む。

III 長岡の特徴を活かした環境型産業の振興

長岡の特徴である天然ガスや高度なものづくり産業、全国有数の米産地であることを活かし、地域産業のイノベーションを興すことが重要。産学官連携で資源循環、再エネ、省エネ技術・設備導入などを積極的に進め、新しい産業を生み出し、地域産業のエネルギー分野への参画を図り、環境と経済の好循環を促進する。

また、既存の技術・設備で今からでも出来ることを実行に移し、産業技術(基盤)の維持・発展につなげる。

IV 長岡の地域資源を活かした循環型社会の構築

再エネ、省エネの導入、資源の有効活用、生態系保全などの観点から、大量消費や使い捨て文化からの脱却が求められている。地域における森、里、川、海をはじめとする固有の自然の価値や文化的資源を再認識し、健康で心豊かな暮らしの実現に向けた取組を推進する。

V 長岡米百俵の精神を引き継ぐ環境教育の推進

2050年の脱炭素社会の実現には、市民、企業、行政など、それぞれが主体的に取組を進めることが不可欠である。そのためには、長岡が誇る米百俵の精神を引き継ぎ、未来の長岡を担う人づくりが重要である。特に持続可能な社会の創り手となることが期待される子どもたちが、環境問題について理解を深め、長岡の環境を守るための行動をとることができるよう、環境に関する教育をより一層推進する。